

平成 29 年度安全管理優良事例集

平成 29 年 9 月



平成29年度 安全管理優良受注者一覧

NO.	受注者名	本店所在地	推薦事務所
1	大高建設株式会社	富山県黒部市	黒部河川事務所
2	小国開発株式会社	山形県西置賜郡小国町	飯豊山系砂防事務所
3	株式会社鹿熊組	長野県長野市	千曲川河川事務所
4	株式会社笠原建設	新潟県糸魚川市	高田河川国道事務所
5	蒲田建設株式会社	岐阜県高山市	神通川水系砂防事務所
6	酒井工業株式会社	石川県金沢市	金沢河川国道事務所
7	株式会社多田組	新潟県長岡市	湯沢砂防事務所
8	株式会社谷村建設	新潟県糸魚川市	新潟港湾・空港整備事務所
9	辻建設株式会社	富山県富山市	立山砂防事務所
10	株式会社新潟藤田組	新潟県新潟市	信濃川下流河川事務所
11	日本海建設株式会社	石川県金沢市	金沢港湾・空港整備事務所
			金沢河川国道事務所
12	株式会社林土木	富山県富山市	富山河川国道事務所
13	株式会社廣瀬	新潟県新潟市	信濃川下流河川事務所
14	株式会社文明屋	新潟県南魚沼郡湯沢町	長岡国道事務所
15	株式会社北越舗道	新潟県小千谷市	長岡国道事務所
16	水新建設株式会社	富山県富山市	立山砂防事務所
17	株式会社皆川組	新潟県新潟市	阿賀野川河川事務所

※受注者名50音順

大高建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全最優先の徹底

当社の最高理念を「安全を最優先」とする。

いかなる場面においても人命尊重の精神をもって仕事を為し、人々の生命・健康と幸せな生活を守るために、事故・災害を絶対に起こさない。

安全方針として、現場の潜在的危険の原因を追求し、管理し、快適な職場環境を形成する。

② 安全管理体制の構築

現場環境として狭隘な山岳地帯での施工も考慮し、安全の考え方、組織各位の責務を明確に定めた「安全ルール」を作成、運用を行っている。

品質・環境のみならず労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）を認証取得し運用、安全管理活動に役立てている。

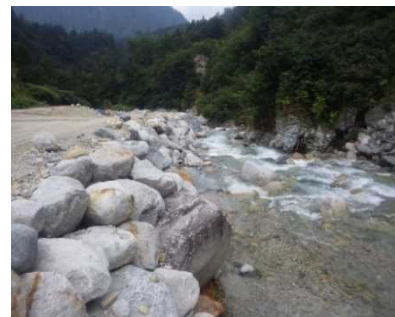
③ 安全管理活動の実施

当社社員および施工に従事して頂いている協力会社幹部・作業員の方々全員参加による安全衛生大会（2回/年）を実施している。また毎月社員全員参加により安全衛生委員会を開催している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① H26-28 小黒部谷第2号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

施工箇所は、中部山岳国立公園内で険しい急峻な地形であり、また、降雨があった場合には河川流量がすぐに激増する河川でもあるため、工事用道路の流出、仮締切の崩壊及び仮橋の流出が懸念された。



② 課題に対して現場で行った安全対策

河川増水による工事用道路の崩壊・流出に対しては、工事用道路を高い位置に変更し設置した。仮橋流出に対しては、インターネットにより雨量情報を早めに収集し判断を行い、流下断面を広げるなど対策をとった。

仮締切の崩壊に対しては、巨石積みとし、特に水衝部には大きめの巨石を配置して、強化を図った。



3. その他工夫している点

現場にライブカメラを設置し、スマートフォンにて常に状況確認できる環境とし休日でも現場状況の把握に努めた。ライブカメラを設置したことで、現場に行けないときの現場の監視、現場の進行、安全行動の把握ができた。

小国開発株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

・安全衛生方針（要約）

労働安全衛生マネジメントシステムを適切に実施し、安全衛生水準の向上を図る。

・平成29年度重点施策

①課題と対策の明確化と施工関係者への周知

施工検討会で課題と対策を明確にし、取組状況を毎月の工程会議で報告する。

②当社施工管理サイクルの継続実施

自社プロセスチェックを毎月実施し、好事例を工程会議で報告し共有する。

③安全と健康の確保

- ・ 5S、玉掛け用具の適正使用について重点的に取り組む
- ・ 化学物質リスクアセスメント実施と周知状況の確認、指導、教育の実施
- ・ 健康診断結果の早期確認、再受診勧奨、健康教育の実施

2. 現場等における具体的な取組事例

①戸沢川砂防堰堤工事における安全管理上の課題

施工を行う砂防堰堤は下流からの乗り込みであり、下流から見た右側が左岸、左側が右岸となったため、勘違いによる間違った作業が行われることが予想された。また、無線を使用したクレーンの誘導を行う際に、お互いが向き合った時の「右に旋回」はオペレーターから見て右なのか誘導者から見て右なのかがわかりにくいことがあった。



②課題に対して現場で行った安全対策

左右岸に赤と黄色のプレートを設置し、右岸・左岸や右・左ではなく、赤・黄色で打合せやクレーンの誘導を行うことで、勘違いによる間違った作業やクレーン誘導時の危険を軽減した。



3. その他工夫している点

バックホウと人の接触事故を防止するため、ワイヤレスの呼出し装置を使用した。重機に対する危険度の認識が甘いとを感じる人が不用意にバックホウに近付いた際に、強い光が目に入り無意識に足が止まるようバックホウ左右・後部にLEDライトを設置した。

株式会社 鹿熊組

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 三大災害防止対策の徹底
 - ・足場からの墜落・転落等の災害防止対策の徹底
 - ・車両系建設機械・クレーン等の安全対策の徹底
 - ・地山掘削等の土砂崩壊による労働災害防止対策の徹底
- ② 安全衛生管理体制の確立
 - ・店社及び作業所の安全衛生管理体制の確立。作業所安全衛生管理計画書の施工検討会と現場での実践状態確認を、本社安全衛生委員会を交えて実施し安全指導と支援体制をとっている。（毎月2回以上）
- ③ リスクアセスメントの確実な実施と確認
 - ・リスクアセスメントに基づくリスク低減措置の施工計画を作成し、作業所での実施状況の確認を本社安全衛生委員会と行う。

2. 現場等における具体的な取組事例

①大俣地区築堤工事における安全管理上の課題

本工事の施工箇所は長野県北部に位置し、1m以上の積雪となる多雪地域に、秋季から冬季にかけて施工する築堤工事である。

築堤材料等の運搬路は、急な下り勾配(6%前後)で、連続した急カーブが続く見通しの悪い市道を積み荷状態で走行することから降雪・積雪・凍結による冬期の交通災害と、施工現場の路肩からの転落、転倒、スリップ事故が懸念された。



市道運搬経路除雪状況

②課題に対して現場で行った安全対策

市道上の除雪は、早朝に地区担当の契約業者で行うが、大雪の時や日中に積雪となった場合は、工程確保のため自社で積雪状態に合せ除雪・塩カル散布を行い運搬車両のスリップ事故防止対策を実施した。また、現場内の通路及び築堤法面の除雪は、作業前にスーパーロングBHと人力で除雪・排雪後作業を行い、懸念されていた交通災害及び現場内での転落・転倒・スリップ事故等無く安全な状態を確保し施工することができた。



築堤法面除雪状況

3. その他工夫している点

- ・運搬路市道沿線の繁茂した支障木の伐採を行い、通行車両の交通安全確保に努めた。
- ・車載型移動トイレの他に女性専用「フラワートイレ」を設置し、現場の快適化を図り、女性職員・ガードマン・植生工の女性作業員等に利用して頂き大好評であった。
- ・急な下り坂の運搬経路を通行するため、特にダンプの過積載防止を徹底するため、トラックスケールで頻繁に重量確認をして事故防止に努めた。

株式会社 笠原建設

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全教育活動の充実

- ・ 本社安全管理室長が RST トレーナーとして、協力業者に対し職長教育や各種特別教育講習を随時開催し、協力業者の安全に対する能力向上に貢献している。

②労働災害低減のための施策

- ・ 会社全体でヒヤリハットの収集に努め、リスクアセスメント化した分析結果資料を取り纏め、協力業者を含め共有展開している。

③各種安全活動の実施

- ・ 安全衛生管理体制を確立し、月 1 回で安全衛生委員会を実施している。
- ・ 「会社役員パトロール」を月 2 回実施している。
- ・ 「衛生管理者パトロール」を女性社員が月 4 回実施している。
- ・ 課長補佐以上（該当者 23 名）による抜打ち安全パトロールを各自で月 2 回以上実施している。
- ・ 協力業者と合同パトロールを年 2 回実施している。
- ・ 安全協力会社と合同の安全大会を年 1 回実施し、安全意識の高揚を図っている。
- ・ 女子社員による安全衛生パトロールを年 1 回実施し、女性の視点から見た安全衛生に対する意見を安全衛生管理に反映させている。



女子パトロール状況

2. 現場等における具体的な取組事例

①歌高架橋切替改良工事における安全管理上の課題

工事は、国道 8 号新ルートの終点部を既設橋梁の一部撤去後、補強盛土で擦り付ける工事であり、施工基面から橋桁までが近接（高さ 3.3m）している状態である。現道桁下での作業となり、橋桁と重機械の接触損傷事故が懸念された。



橋桁下での施工

②課題に対して現場で行った安全対策

国道 8 号現道桁下に「レーザーバリア警報システム」を配備し、橋桁に異常接近するとパトランプが点灯・警告音が鳴るように設置した。また、バックホウには衝突防止安全装置を取付けた機種に限定し、橋桁と重機との接触事故防止が図られ、安全確実な施工を行うことができた。



レーザーバリア設置状況

3. その他工夫している点

- ・ 現道上での安全施設面では、橋桁撤去後の狭い幅員の中、より安全に車両が通行できる安全管理が課題であったが、①昼夜視認性のある電光掲示板の増設、②交通誘導員による昼夜徐行誘導作業、③現道が狭隘である為、夜間 LED 照明の配置で視認性を上げ交通事故防止対策を実施。さらに、現場を一望できる Web カメラの配置により、24 時間リアルタイムで国道交通状態を把握するなど安全確保に努めた。

蒲田建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 施工計画会議・工事事前検討会の実施
工事着手前、社内で『施工計画会議・工事事前検討会』を実施している。配置人員、工事特性の把握、危険のポイント、問題点、照査事項等を抽出して施工計画作成に反映させている。
- ② 店社安全パトロールの実施
店社安全パトロールは月に2回実施している。また、年に数回は女性社員合同パトロールも実施して、女性の視点から安全パトロールをすることで現場環境改善を図っている。
- ③ 店社安全大会の実施
店社安全大会を年に1回開催し、外部講師による建設工事の安全に関する講演や、エクササイズによる健康管理等を行っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

- ① 白谷第3号砂防堰堤その2工事における安全管理上の課題

白谷は中部山岳国立公園内に位置し、活火山焼岳の麓、上流部には大崩壊地が形成され、大雨時には頻繁に土石流が発生する『土石流危険渓流』である。管内でも土石流の発生率が非常に高い場所であり、作業中に土石流が発生した場合、現場に従事する全員が安全な場所に瞬時に避難できる体制とすることが一番の重要課題であった。



【上空から白谷を望む】

- ② 課題に対して現場で行った安全対策
土石流の危険性が高いことから、土石流安全対策システム『安全管理サポートシステム』を活用した安全管理体制を図った。現場においては、安全な避難経路及び避難場所(待機小屋)を確保し、避難訓練は2ヶ月に1回実施した。これらを実施したことにより、平成28年8月1日の作業中に突然発生した土石流時は、全員が安全に避難することができた。



【避難通路・避難場所・待機小屋】



【安全管理サポートシステム全体図】

3. その他工夫している点

- ① カラーコーンの色分けによる行動範囲の明確化
場内をカラーコーンにより色分け(赤⇒立入禁止、黄⇒路肩注意、緑⇒作業通路、青⇒資材置場)を行った。カラーコーンにより色分けすることで行動範囲が明確になり、不安全行動防止及び現場内整理整頓に繋がった。



【場内カラーコーン色分け状況】

酒井工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全管理体制の確立

リスクアセスメントを取り入れた安全衛生管理計画、作業計画書の作成及び危険予知活動を行うと共に、月2回の店社安全パトロールには社長が同行している。

②安全活動の実施

年一回、社員、協力会社の安全意識の高揚を図るため、外部より講師を招いて安全大会を開催し、現場の安全に貢献した社員、協力会社社員を表彰。また、年一回酒井工業労務安全協議会の安全パトロールを実施している。

③安全教育の充実

建設業労働災害防止協会石川支部の安全指導者に委託されている店社安全担当者が、現場で安全教育・訓練を行うと共に、社外の講習会にも参加し、安全管理能力の向上に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①能越道 長沢道路その2工事における安全管理上の課題

本工事の施工箇所は、能越自動車道輪島道路の長沢地区において、盛土部内となる林道のアーチカルバートボックスを施工する工事である。当該工事は同一構造物を隣接する他工事と二分して施工するものであり、綿密な工程調整が必要であるほか、工事用道路の共有及び施工ヤードの制限がある中での安全管理の徹底が求められた。

②課題に対して現場で行った安全対策

工程調整については、週1回長沢地区工事連絡会を開催し資機材の搬入、工事施工範囲、施工順序について調整を図り、工事用車両や重機械類の集中・輻輳を防ぎ、手戻り・ロスをなくして全体工程の遅延防止を図った。

また隣接工区と工事用道路が重複しているため、敷鉄板上に白線を引き、工事箇所と隣接工区の通行路の識別を行った。



施工箇所写真



工事用道路写真

3. その他工夫している点

- ・冬季対策として「モーター式高圧洗浄機」温水ボイラーユニットを使用し、鉄筋や型枠に積もった雪を溶かしながら洗浄した。
- ・熱中症対策として安全教育・訓練時、作業員全員に「簡易体温チェックシート」を配布した。また、作業所の冷蔵庫にはOS-1（経口補水液）を常備し、試飲を行うなど、使用方法の周知を図った。

株式会社 多田組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 無事故無災害を目指したKYKとリスクアセスメントの徹底

施工計画時の危険の洗い出し、危険予知活動とリスクアセスメントの徹底。

② 安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理活動計画に基づく「社内安全パトロール」、「安全衛生委員会」および「安全大会」を主軸に、安全衛生指導と訓練、情報共有と水平展開を実施。「安全大会」は年4回開催し、火災等の緊急事態を想定した対応訓練を行って手順の妥当性を検証している。

また、保健師、管理栄養士を講師に、健康診断後に個人別事後指導を実施し、社員の健康管理を推進している。

③ 資格取得に向けた社内研修会の実施

社員の技能講習や安全教育に関する講習への積極的参加を進めると共に、土木施工管理技術向上を目的とし、国家試験合格に向けた社内研修会を計画。全14回（56時間）の研修会を開催して担い手育成に取り組んだ。



2. 現場等における具体的な取組事例

① 源太山川砂防堰堤工事における安全管理上の課題

現場は浸食に脆弱な砂質土層であったため、雨水による洗掘や崩壊の危険性が高く、切土施工時、及び法尻部での本堰堤工の作業では、法面崩壊に対する安全対策が課題となった。



② 課題に対して現場で行った安全対策

本堰堤掘削開始後に、掘削箇所全面を屋根状にシートで覆い、雨水の進入を防止して全工程完了まで切土法面の維持に努めた。

また、地山点検は「斜面の点検者に対する安全教育」を受講した者が行い、適切な斜面状況の把握に努めた。



3. その他工夫している点

当社は現場で女性オペレータが活躍し、女性職員も複数いることから、現場で女性が快適に働くことが出来る作業環境の標準化を図っている。現場内の整理整頓や清掃は勿論のこと、男女別の快適トイレの設置、更衣室、手洗い器の整備等、快適な環境を目指す社員の声に傾聴し、改善を取り入れている。



株式会社 谷村建設

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生管理体制の構築

- ・年度安全衛生管理計画の作成及び周知会の開催。
- ・安全衛生委員会の定時(毎月)開催。
- ・各種パトロールの実施。

(経営者、部門長、部門、協力会社、安全衛生委員、各行事)

② 労働災害低減のための施策

- ・労働安全衛生マネジメントシステムを導入し継続的な安全管理を実施。
- ・リスクアセスメントを確実に実施し、リスクの低減を図る。
- ・部門長、安全担当部参加の工事着手前の施工方針会議の実施。
- ・「一声運動」を実践。「挨拶」「声かけ」により災害防止に努める。

③ 健康保持増進と明るい職場づくり

- ・健康診断受診後の、有所見者へのフォローアップ及び精密検査実施の確認。
- ・ストレスチェックを実施し、心理的負担を把握し職場環境の改善につなげる。

2. 現場等における具体的な取組事例

①新潟港(西港地区)航路泊地浚渫工事

(その1) における安全管理上の課題

本工事は、新潟西港の航路及び泊地の維持浚渫を行う工事である。

浚渫箇所及び浚渫土砂の土捨て場所である、新潟西港沖合いまでの土運船運搬作業時においては、佐渡汽船等の大型船やレジャーボート等の小型船、その他一般航行船舶が工事現場付近を頻繁に往来することから、海上衝突事故を未然に防止する安全対策が重要な課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

作業水域に安全監視船、作業船上に見張員を配置し、双方で航行船舶の有無を確認することで見落としを防止。航行船舶を確認した際は、即座に作業船周囲の状況確認及び作業船のどちら側が安全な航行路であるかを見極め、航行してくる船舶を確実に誘導するため、監視船と誘導標としてLED矢印板を用いて誘導。

なお、誘導等の情報不伝達は、誤った誘導や事故を誘発することから、見張員と安全監視船に無線機を携帯させ情報の共有を図り、衝突事故防止に努めた。



浚渫作業中の水上バス運行状況



安全監視船の配置状況
グラブ船船尾にLED矢印板を設置

3. その他工夫している点

定期船航行時と土運搬作業が輻輳しないよう、各定期船の時刻を避けた土運搬作業を計画、時刻表による定期船入出港状況のチェック等の管理を行った。

辻建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 情報の共有徹底

毎月1回、安全衛生品質委員会において当月実施したパトロール指摘事項、改善報告等の情報共有と安全・衛生等に関する法律の改正等に伴う当社としての対応を議論して、安全確保を保つためのリスク低減を図っている。

② 安全管理体制の構築

年1回、協力会社災害防止・対策協会総会において事業報告及び事業計画を採択するとともに安全衛生優良会社表彰、無災害現場監督者表彰、優良工事現場監督者表彰を実施、その他、外部講師を招いての講演により、安全意識の高揚を図る。

③ 快適職場への実施

月1回、働き方改革会議を実施し残業時間の短縮・休日の確保・有給休暇の活用・若年社員の定着等を全社員のアンケートを基に快適職場に向けて取り組んでいる。

2. 現場等における具体的な取組事例

①H28 滝谷第1号砂防堰堤及び工所用

道路工事における安全管理上の課題

施工箇所は河床勾配が1/4.2と急峻であり、土石流が幾度も発生している箇所である。雨天後の工事の再開にあたっては上流部の不安定土砂の堆積の有無を調査する必要があるが、徒歩での調査は、土石流災害・飛来落下災害・転倒災害が懸念された。



②課題に対して現場で行った安全対策

土石流センサーは基より、上流部の調査をドローンで行った。モニターにリアルタイムで映し出される映像で状況を確認し、以前に録画しておいた状況との差異を確認する事で土石流の兆候を監視する事ができた。また、操作は安全な場所で行え、時間も短縮できた。



3. その他工夫している点

急峻な地形の中で砂防堰堤の袖部長大斜面掘削においてマシンガイダンスを活用して丁張作業、バックホウとの合番作業を無くし、リスクの低減を図った。



株式会社 新潟藤田組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針の徹底

新潟藤田組は、「人間尊重」の企業理念の基「安全第一」を基本に労働安全衛生法令及び当社社内規定を尊重し、関係者全員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進する。

② 社内安全管理体制の構築

安全衛生委員会組織のもと、月一回の安全衛生委員会及び協力業者参加による安全大会を毎年開催すると共に、工事着手前にはリスクアセスメントによる安全管理並びに管理体制の構築を含めた施工検討会を開催している。

③ 社内安全パトロールの実施

安全課による月2回以上の現場パトロールに加え、現場災害防止協議会での土木部長・安全課長の参加や定期的な本社幹部による安全パトロールの実施など、本社と現場が一丸となって安全管理に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 本工事における安全管理上の課題

本工事は、約23000m³の河道掘削並びに土砂運搬が主な工事内容であった。

掘削土砂の搬出先が5箇所に分散したため、運搬経路が複数となり、土砂運搬における交通事故防止対策が重要な課題であった

② 課題に対して現場で行った安全対策

日々の全作業員の体調チェック及びKYミーティングの実施、午前・午後1日2回の作業所長・安全巡視員による現場パトロールを行うと共に、土砂運搬車両の運行・過積載状況や安全施設等の確認を行い、不備についてはその場で是正した。

朝礼KYミーティング



土砂運搬パトロール



3. その他工夫している点

交通事故防止のため、土砂運搬前にダンプトラック運転手に対し、死角範囲を確認する安全訓練の実施と安全運行ハザードマップによる運搬経路上の危険個所を事前に周知した。

また、ダンプトラックにはクラウドアイドライブレコーダーを設置し、運転手の安全意識の向上を図った。

安全運行ハザードマップ周知



日本海建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の確立

年度初めに安全衛生管理計画を作成し、基本方針、安全衛生目標、スローガンを定め「安全と健康」を両立させる計画としています。

②安全衛生活動の実施

安全衛生委員会を毎月開催し、店社パトロール時(3回/月)の現場状況を写真に収め、委員会でプロジェクトに映し出し報告、状況を共有しています。

また、議事録・パトロール資料等を全職員にメール配信して、審議内容・遵守事項を周知させています。

全国安全・衛生週間、年末年始時には「社長メッセージ」を発信しています。

③安全衛生教育の充実

建災防石川支部の安全指導者に委託されている店社安全部長が、現場で安全教育・訓練を行うと共に、独自に作成した「安全と健康」に関する教育資料を監督職員全員が活用できるように配付し、安全衛生管理能力の向上に努めています。

2. 現場等における具体的な取組事例

①金沢港(大野地区)防波堤(西)(改良)消波工事

(その4)における安全管理上の課題

本工事は初めて採用されたドロスⅡ型(65t)の大型消波ブロックの製作でありましたが、県の災害復旧工事等(14工事)と近接している為、工程調整や第三者災害防止等の管理が求められました。

②課題に対して現場で行った安全対策

「金石・大野埋立地工事安全連絡協議会」を設立し、会長として工事間の連絡調整や安全活動等を毎週行うなど協議会活動を円滑に運営することにより、第三者災害や苦情等も無く工事を安全に完了することができました。



ドロスⅡ型(65t)写真



玉掛警報機

施工状況写真

3. その他工夫している点

- ・ブロック製作場所が海岸に近く、強風や突風に対応する為、吹き流しと共に3色識別警報ランプ付風速計を設置し、リアルタイムで風速を確認しました。
- ・足場と型枠の隙間にエキスパンドメタルを設置し、開口部からの転落や工具の落下防止措置を講じました。
- ・視覚だけではなく聴覚による注意喚起として、コンクリートホッパーに玉掛警報機の取り付け、足場昇降口に赤外線センサー音声案内機の設置等により、労働災害防止に努めました。
- ・ブロックの転置等に使用する玉掛ワイヤ(φ65mm)重量が約500kgと重く、玉掛者の腰への負担や指を挟むリスクを低減する為に架台を工夫して設置しました。

日本海建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の確立

年度初めに安全衛生管理計画を作成し、基本方針、安全衛生目標、スローガンを定め「安全と健康」を両立させる計画としています。

②安全衛生活動の実施

安全衛生委員会を毎月開催し、店社パトロール時(3回/月)の現場状況を写真に収め、委員会でプロジェクトに映し出し報告、状況を共有しています。

また、議事録・パトロール資料等を全職員にメール配信して、審議内容・遵守事項を周知させています。

全国安全・衛生週間、年末年始時には「社長メッセージ」を発信しています。

③安全衛生教育の充実

建災防石川支部の安全指導者に委託されている店社安全部長が、現場で安全教育・訓練を行うと共に、独自に作成した「安全と健康」に関する教育資料を監督職員全員が活用できるように配付し、安全衛生管理能力の向上に努めています。

2. 現場等における具体的な取組事例

①H27・28 小松人工リーフ工事における

安全管理上の課題

本工事の施工箇所は、海岸の浸食や災害を受けた場所で、隣接する石川県が発注する災害復旧工事等との調整が必要な場所であり、設計内容の大幅な変更等の対応を含め、工程調整等適正な施工管理と安全衛生管理を求められました。

②課題に対して現場で行った安全対策

石川海岸安全対策協議会の中に県発注工事関係者も参加して貫い、副会長及び幹事として工事間の連絡調整や活動を円滑に遂行すると共に、小松労働基準監督署へのパトロール参加(2回)を要請、安全と健康に関するミニ勉強会を開催する等、会長を補佐しました。



施工状況写真



協議会パトロール状況写真

3. その他工夫している点

- ・現場に設置した計測器(風速・温度)のデータを「安全管理ポータルシステム」を利用し、設定基準を超えた場合、設置した警報機やメールで知らせていました。
- ・海上作業期間中「気象予測システム【羅針盤】」を用いて海象・気象情報を入手し、安全作業可能日を把握していました。
- ・ネットワークカメラを設置し、施工状況等を確認・監視していました。
- ・海上作業中、連絡員に携帯式雷検知器を持たせ、雷雲の発生をいち早く警報で知らせ避難体制がとれるようにしていました。
- ・ブロック据付時、間隔保持や手・指の挟まれ防止の為に器具を使用しました。

株式会社 林土木

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全方針

「安全はすべてに優先する」を念頭において、安全衛生管理活動の活性化を図り、労働安全衛生関係法令の遵守と危険・有害要因を排除した施工を実践し、労働災害の撲滅を図る。

② 総合的安全衛生管理の推進

安全衛生に関して毎年策定する安全指針により、安全衛生管理を総合的に進める組織、体制を整えるとともに、安全活動は職務の一環であるとの認識のもとに、各管理者による職務の励行と安全活動の定着、向上を図る。

③ 社内外からの安全パトロールの実施

すべての現場において、着工前に会社役員による着工前パトロールを実施する。毎年8月には、建災防の安全管理士による外部パトロールを実施し、また、月2回の月例社内パトロールを実施して、全社的に安全に対する意識の改善、高揚を図る。

【現場全景】

2. 現場等における具体的な取組事例

① 構台設置工事における安全管理上の課題

工所用構台施工箇所は、最大高低差が約43mの急峻な斜面上であるため、斜面上での作業を極力低減する対策が不可欠であった。また、現場は県内でも有数の豪雪地域のため、降雪時の構台上や急斜面でのリスクを伴う作業を回避して工期内に工事を完了するには、積雪前に構台設置工事を終える必要があった。



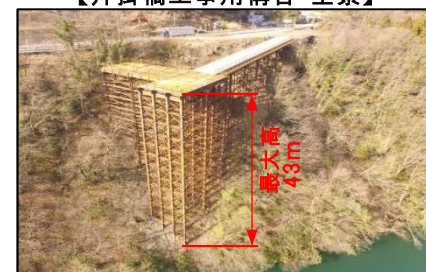
【懸垂式 Gondola 作業】

② 課題に対して現場で行った安全対策

構台高さが地上10mを超える場所での水平継材及び垂直ブレスを取付ける際の足場として、懸垂式 Gondola (スパイダー工法) を採用した。スパイダー工法は単管足場に比べ、斜面での作業がなく構台組立作業の流れの中で設置・撤去作業ができ、鋼材を取入れる際には空間スペースの有効利用が可能のため、危険リスクを低減させ大幅な省人化、工程短縮を図ることができた。



【片掛橋工所用構台 全景】



3. その他工夫している点

・現場事務所兼休憩所から現場への移動の際には、カーブがあり見通しの悪いR41を横断するため、150m先に車両検知器を設置し、横断箇所ですら車両の接近が確認できるように回転灯を設置した。また、横断箇所から現場までの約30mの歩行区間には、国道脇の斜面に仮設通路を設置して、作業員の交通災害の防止に努めた。

・河川への転落防止柵の設置が困難な箇所での落水対策として、滑落防止の親綱の設置のほか、施工箇所近くの川辺に救命浮環を備え、さらに救命胴衣の着用を義務付け作業を行なった。

【横断箇所の回転灯】



株式会社 廣 瀨

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生管理体制の構築

年度毎に定める安全衛生管理活動計画の「基本方針」「重点目標」に基づき、安全衛生委員会や役員をはじめ各部門及び安全管理部によるパトロールの実施、安全会議や安全大会等の開催で、会社と作業所の共通認識を語り全社員及び協力業者一丸となった安全衛生管理体制を実践している。

② 労働災害撲滅に向けた安全管理活動の徹底

店社安全衛生委員会より労働災害防止対策として定めた「ルール15ヶ条」を各現場徹底した取り組みを行っている。また、重機作業計画書では、作業従事者全員と積極的な意見交換を行い、事故防止に向けた安全意識の共有化を図っている。

③ 安全関連の教育・訓練の充実

資格取得に向けた講習受講の支援、ストレスチェックの実施等によるメンタルヘルスを含めた健康保持増進活動、その他外部講師を迎えた教育・訓練を定期的実施している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 新光町やすらぎ堤その4工事における安全管理上の課題

鋼矢板の圧入施工に際し、冬期の季節風などの影響を受けやすいことや、ノンステーシング工法による施工のため、限られた作業スペースや水上施工などの現場条件を考慮した安全管理が要求された。



パイルローラー使用

② 課題に対して現場で行った安全対策

鋼矢板の吊り込みでは「パイルローラー」を使用し、強風時による鋼矢板の横ぶれ防止対策を行った。また、鋼矢板搬送レールの取り付けでは「小型台船等」を配置し、安全な姿勢で溶接作業ができるよう配慮した。



小型台船・箱船の使用

3. その他工夫している点

工事現場の仮囲い設置位置には光ケーブルの埋設が確認され、単管パイプによる打ち込み基礎では破損させる虞がある事から、山留材(H-350*350)を代替えとして施工した。



山留材による仮囲い基礎

株式会社 文明屋

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 労働安全衛生MS（[P]計画[D]実施[C]評価[A]改善）を積極的に推進し、労働災害の撲滅、心の健康保持増進を図り、快適で潤いのある職場環境を形成する。
平成28年度 安全衛生目標
「死亡・重篤災害、墜落災害、重機災害、交通災害・違反」を“ゼロ”とする。
- ② 社員の安全意識の高揚を図るために社員から安全標語を募集し、年1回の安全大会開催時に出席者全員の投票により最優秀安全標語を決定し表彰した。
最優秀安全標語は一年間本社、現場事務所に掲示した。
平成28年度最優秀安全標語
「無災害 人に頼らず自分から 目配り 気配り 心掛け」
- ③ 毎月1回経営者、工事担当者による定例会議を行い、工事進捗や安全に関わる問題事項を共有する事で翌月の事故防止対策へ反映させた。

2. 現場等における具体的な取組事例

- ① 湯沢維持出張所管内維持工事（平成27-28年度）
における安全管理上の課題

本工事は、豪雪地域の市街地から山間地の標高差が900mに及ぶ国道17号湯沢維持出張所管内延長44.2kmの維持修繕工事である。

施工には必ず交通規制を要し、交通量の多さと路面凍結等が懸念事項となることから、交通規制に伴う交通事故防止と第三者災害防止が重要な課題となった。



図1

- ② 課題に対して現場で行った安全対策

交通規制時の交通事故・第三者災害防止の為、朝礼時に規制図を大きく印刷し視覚的要素を加えた打合せを行うことで、規制方法・注意事項をわかりやすく全員に周知した。（図1）

冬季規制時には路面凍結等が原因で発生する事故防止の為、凍結防止剤人力散布に農業用背負い式肥料散布機を用いることで、迅速かつ容易に路面状況変化に対応した。（図2）



図2

3. その他工夫している点

- ① 夏季の熱中症対策として、スポーツドリンク・水タンク・クーラーボックス・塩分補給の飴を用意・配布し、安全チョッキはメッシュ型で通気性の良いものを着用した。また、現場の熱中症指数を正確に把握するため熱中症指数モニターを設置し、熱中症防止を行った。
- ② 熊の目撃情報があった山間地施工時の熊よけ対策として『ウルフピー（動物獣忌避剤）』を熊の進路となり得る箇所に設置し、作業員への被害防止とした。

株式会社 北越舗道

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 安全管理体制の構築
安全衛生委員会を明確に組織し、年間計画に基づき安全衛生大会、月毎の安全教育訓練を実施している。
- ② 安全パトロールの実施
社長及び役員が安全パトロールを1回/週、女性社員を加えた安全パトロールを1回/月実施し、パトロール結果を社員全員に周知して安全意識の継続的な向上を図っている。
- ③ 現場巡視員の配置
再雇用の熟練技能者を現場巡視員として配置しており、各現場において日々の安全管理を徹底している。

2. 現場等における具体的な取組事例

- ① 国道8号高瀬町入口外交差点改良工事における安全管理上の課題

国道8号の非常に交通量の多い地域での交差点改良工事であり、車線規制を伴う作業は夜間での施工となり、4ヶ月間に渡り夜間施工を行った。その中で、一般車の追突事故等、第三者対策が課題となった。

- ② 課題に対して現場で行った安全対策

大型ソーラー標識車の設置、回転灯の設置、同期式矢印板、点滅灯の設置で交通規制を早期に認識してもらうよう工夫した。

また、日々の規制時に実際に通行し危険箇所等の改善をその都度行った。

その結果、無事故・無災害で工事を完成させた。

現場全景



夜間規制状況



3. その他工夫している点

- ・ 毎日の作業終了後には反省ミーティング（自称：WKY活動）を実施して、毎日のKY決定事項の結果評価、作業計画の実施状況評価、安全チェック事項の評価を行い、継続的な改善活動を行った。
- ・ 地元、市道改良業者、市、その他関係機関との調整を密に行い、特に地元には工事案内の回覧だけでなく、交差点開通（工事完了）のお知らせを回覧し、交差点の開通時期、交差点の形状変更をより広く周知した。

水新建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生目標（無事故・無災害の達成）

- ・リスクアセスメントを導入した「無事故・無災害の達成（災害ゼロ）」
- ・毎朝の危険予知活動時の体調確認（健康は自分で守る）

②気象情報担当の配置

気象情報に関して広域的、長期的な情報が必要不可欠と考え、本社に専任の「気象情報担当」を配置し、的確な情報収集を行い、現場と本社間での情報の共有化を図った。

③安全パトロール等実施

毎月1回、店社安全パトロールを実施して、安全対策の向上を図り、また、河川内工事であることから、併せて、毎月1回の避難訓練を実施した。

7月には、協力会社を含めた社内安全大会を開催した。

2. 現場等における具体的な取組事例

①「H28 桑谷上流砂防堰堤工事」における安全管理上の課題

本工事は、河川内工事で、かつ、主な工種がクレーンを使用したコンクリート打設作業である点から、急な出水・河川増水による自然災害、クレーン等による災害、猛暑の中での作業による熱中症による健康被害が懸念された。

②課題に対して現場で行った安全対策

自然災害防止の対策として、専任の「気象情報担当」の配置とインターネットを利用したWebカメラを現場に設置して、24時間何処からでも現場の雨量を確認出来るシステムを構築して気象情報の早期の把握に努めた。

クレーン等災害防止対策として、使用する25t吊ラフテレーンクレーンのブーム先端にクレーンカメラを設置して、視認性の向上を図った。

健康管理（熱中症対策）として、作業時に大型送風機を設置して、体感温度の低減に努めるとともに、独自の作業基準を定めて、周知徹底を図った。



3. その他工夫している点

作業従事者全員のヘルメットにQRコードを貼り、傷病者の情報の共有化を図った。

現場近傍には落石危険箇所があることから、当社所有のドローンで落石監視を行った。また、緊急時に備え、緊急時マニュアルを整備して、緊急避難用品を各避難所に常備した。女性作業員が従事することから、職場環境の改善目的の一環として、先駆けて、女性専用トイレを設置した。



株式会社 皆川組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理の基本方針

・労働災害の重大事故及び休業4日以上事故ゼロを継続・維持するためにヒヤリハットや予防改善処置（リスク評価）を含めた安全管理を徹底する。

②安全衛生管理体制の構築

・本社の「本社安全衛生委員会」及び「労働災害防止協議会」、各工事現場に「現場安全衛生協議会」を設置し、関係協力会社を含めた安全衛生管理の積極的な推進を図っている。

③経営者層による安全パトロールの実施

・月2回実施している店社安全衛生・環境パトロールのほかに経営者層パトロールを1回実施して、安全衛生管理計画に基づき会社全体で安全管理を実施している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①阿賀野川下里地区河道掘削その3工事における安全管理上の課題

・河道掘削した大量の土砂を運搬するため、交通事故防止対策が重要でありダンプ運転手の体調管理や運転状況の把握に努めた。



アルコール
チェック

②課題に対して現場で行った安全対策

- ・朝礼時のアルコールチェックの実施。
- ・ハザードマップによる注意喚起の実施。
- ・スピードガンによる速度測定の実施。
- ・当社職員による運搬ルートパトロール。
- ・クラウド アイによる運行管理の実施。



スピードガン



3. その他工夫している点

- ・土砂運搬開始前にダンプ運転手をマイククロバスに乗せて、現場から土砂搬出先までの運搬ルートを実際に走行し、「運搬経路ハザードマップ」により注意箇所や危険箇所等を説明し、紙面上ではわからない事項も現地で確認し、安全運転に役立てた。
- ・運搬車両全車にドライブレコーダーを搭載しており、苦情や事故等が発生した際には速やかに映像を確認し対応できる。

北陸地方整備局 企画部 技術管理課

TEL 025-280-8880 FAX 025-280-8861

HP <http://www.hrr.mlit.go.jp>